

PICK UP

～災害への取り組み～



マルチダウン実施訓練

4月に、消火器・通報・マルチダウンの実施訓練を行いました。訓練内容は、施設内の消火器の場所や使用方法の説明、正しい情報を消防署に伝えられるように消防通知訓練等です。マルチダウン訓練では、2階の避難路に設置してあるマルチダウンを使用し、支援員が2人1ペアで乗り込み、機械を操作して1階に降りるという訓練を実施しました。今回初めてマルチダウンの操作を行う職員もあり、注意点を伝え、実際の災害を想定しながら行いました。

各地での自然災害を受け、避難訓練の必要性・重大さを日々感じています。突然災害が起きた時でも、職員が混乱することなく正しく操作をしなければ利用者の安全は保障されません。正確に操作方法を学ぶことで、突然災害が起きた場合でも、職員が冷静に落ち着いて対応できます。今回は感染症予防対策のため、利用者は参加しませんでしたが、今後は職員と一緒にマルチダウンを使用した避難訓練を実施していきたいと思います。

(記 船山)



水害訓練

7月に水害訓練をのぞみときずの職員合同で行いました。毎年、この時期になると新人職員や異動職員も含めて行っています。

水害訓練を行う理由として、あかしあの杜は荒川が氾濫した場合、浸水地域(5m未満)に含まれており、2階の半分まで浸水する可能性があります。また、浸水継続時間も1日から3日となっており、泥等で1階、2階は使用できなくなる事が予想され避難する必要があるからです。

地域避難場所は舍人公園となっていますが、利用者全員を舍人公園まで避難誘導を行う事は現実的ではなく、施設内には3日分の備蓄品もある為、3階または4階に避難することが望ましいことになります。

今回の訓練は、職員のみの参加で、利用者の方は参加していません。その為、車椅子を使用し、3階以上に避難誘導をしていることをイメージしながら行いました。

避難誘導時に必要なポイントとしては、利用者の避難の順序、ケガ人の対処方法、職員間の情報共有が必要になります。今回参加した職員の中には、「避難時の対応をイメージすることができた」、「慌てることなく、いかに冷静に動けるかが大事」と思った方もいました。

また、胃ろうの方やケガ人、動きのある利用者の方は予め誘導するところを決めておく必要があるのではという意見が挙がりました。防災委員としては、今回の意見や反省を踏まえて、より良い訓練を考えていきます。そして、実際に避難しなければならない状況になった時にスムーズに避難できるように努力していきたいと考えています。

(記 高須)



■編集後記■

コロナの影響で外出やイベントが中止となり、活動に制限がかかっておりますが、3密を避け施設内で可能な体験・活動を充実させていきたいと考えております。今年もよろしくお願いします。

(大津 記)

もっちり
もっちり

発行元：社会福祉法人あいのわ福祉会 竹の塚あかしあの杜 広報委員会

〒121-0813東京都足立区竹の塚7-19-11 TEL：03-5654-7731 (代)
FAX：03-3859-6655

発行責任者：三瓶善衛



施設長あいさつ



新型コロナウイルスの影響により、落ち着かない日々をお見舞い申し上げますとともに、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2020年は新型コロナウイルスの未曾有の感染拡大により、多くの方がたいへんな経験をされたことと思います。当施設においても、面会や外出等の制限、様々な日中活動や行事の中止等、サービスの利用自粛や縮小のお願いをさせていただきながら、施設運営に取り組まざるを得ない試練の年でした。利用者ご家族の皆様、関係機関の皆様には多大なご理解とご協力、ご支援をいただき、深く感謝しております。

施設内においては、日中活動や食事場所の分散、食席のレイアウト変更、定期的な換気等による三密を回避する取り組み、つい立設置やマスク・ゴーグル・フェイスシールドの着用等による飛沫対策、リモート会議や三密の場所への外出自粛等、新たな生活様式が定着してまいりました。また、感染対策を講じつつ、利用者の皆様に少しでも楽しいひと時を送っていただけるような日中活動を企画して、取り組ませていただきました。職員はマスクを着用しながら利用者の皆様と向き合い、安全な場所でマスクを外した時に、大きく息を吸って頑張ってくれています。

2021年は、新たな生活様式のさらなる浸透と、withコロナ時代の支援のあり方が問われる年となることでしょう。一施設の努力だけでは乗り越えることができない流れの中にあって、誰もが非常に厳しい状況に直面しています。施設一同、「一人ひとりにとって価値ある一日」という基本に立ち返って、地道に目の前でできることから取り組んでまいりたいと存じます。

本年が皆様にとって良い年となりますよう祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

施設長 三瓶 善衛



本誌掲載の写真・個人名の使用については個人情報に基づき、ご本人の許可をいただいております。



ペットボトルキャップ回収のご報告

ペットボトルキャップ受領書

竹の塚あかしの杜様

キャップ重さ：34.1Kg

受領個数：14,663個

ワクチン：17人分

ワクチン寄付は、弊社より「NPO法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ直接寄付をします。

竹の塚あかしの杜のぞみでは、発展途上国の子供にワクチンを届ける活動に貢献したいと考え、ペットボトルのキャップを集めて、指定された回収業者を持っていきました。

2019年度より玄関にペットボトルキャップ箱を設置させて頂き、2020年5月と10月にキャップを回収業者に届お届けしました。左記に受領書の一部を記載致します。

たくさんのペットボトルキャップを持参して頂き、ありがとうございました。

ペットボトルキャップがワクチンに変わるまでの詳細は、下記URLをご覧ください。
<https://www.jcv-jp.org/donation/pbcap>

(記 大津)

のぞみ勉強会

竹の塚あかしの杜のぞみでは、同じ法人内の就労移行支援事業所と連携をとり、時間管理・コミュニケーション勉強会を前年1月に行いました。その後毎月、各々利用者の皆さんに立てた目標について、振り返る時間を設けています。

今月は〇〇部分ができなかったので、来月はもっと考えて相手の気持ちになって発言したい。今月は〇〇ができる、相手から「ありがとう」という言葉をもらえた。時計を意識して、次の活動へスムーズに行けるようになった。また、ヘルパーさんに伝えたい内容をiPadに保存して見せることで、コミュニケーションが以前よりスムーズにできるようになった。今後は、曜日ごとのスケジュール作成して、ヘルパーさんと共有していく等、「考えて発言すること・考えて行動すること」を毎日の生活の中で意識して取り組んで頂いています。勉強会に参加された皆さんは将来、就労・GH・一人暮らしetc...の目標を持っています。

目標達成のために、「今」できることは何かを問い合わせながら、支援員・利用者の方ともに成長していきます。

(記 大津)



ハロウィン フォトショット

きずなでは10月下旬にハロウィンイベントとして、仮装撮影会を行いました。久々のイベントに利用者の方々も笑顔で楽しまれました。また、サプライズ演出として職員も本格的に仮装して、利用者の方に笑いを届けることが出来ました。

普段と異なる日常生活になり、様々な行事ごとを自粛する中、感染予防対策に配慮した上でも行えることは限られていると思います。今回、このイベントを通して利用者の方、職員共に笑顔になる事がでて良かったと感じています。今後も、きずなの利用者の方・職員が共に同じ時間を過ごす生活の中で、開催可能なイベントを考えて、皆で楽しむ時間をつくれたらと思っています。

(記:斎藤)



きずな服薬研修

竹の塚あかしの杜では、昨年度の服薬に関する事故を機に、服薬介助研修を重点的に行ってきました。研修の中では、病院で実際にあった薬の事故事例も交え薬のリスクについて学び、職員が担う役割が重要性にも触れました。事故を繰り返さないために原因の追究、手順の再構築、マニュアルの修正を重ね、薬を確実に服用することの意味を、改めて全職員で考える貴重な機会となりました。

これまで当然のように行ってきた服薬前の確認作業ですが、指差し、声出しのダブルチェックを、更に集中して行えるような環境を職員同士が協力して作ることを再確認しました。

薬を確実に服用して頂くことは、利用者の命にも関わる大切な支援といえます。薬には発作の予防や、緊張の緩和、情緒の安定など日常生活をより豊かに送るための役割があります。その一方で、副作用の問題もありますので、服用後の観察も欠かせません。それだけに、内服薬の管理はとても細やかな配慮を要する業務といえます。

事故は起きてはならないもの、どんな状況でも起こさない取り組みを諦めないこと。私たちはこれからもそのことをしっかりと胸に刻み、支援にあたりたいと思っています。

(記 吉川)

